

2. ウラムバヤル・ツェツェグドラム（モンゴル、モンゴル国立科学技術大学）

「モンゴルの高等教育機関における日本語教育の現状と課題 モンゴル国立科学技術大学を中心に」

モンゴルでは、1975年2月モンゴル国立大学の文学部外国語学科に初めて日本語クラスが開設された。1989年以降、モンゴルと日本両国の関係が急速に発展したことから、日本語の専門家の需要やその養成の必要性が高まっている。現在、44の高等教育機関で日本語学科が開設されている。

モンゴルでは、日本語教育機関、日本語学習者が年々増加している。また、2002年から日本語能力試験が実施され始めたが、国際交流基金による調査では1、2級受験者が年々増加している。

モンゴル技大では1995年に日本語教育が始まり、2002年に日本語学科に昇格し、日本語-英語翻訳・通訳を専門として日本語教育が行われるようになった。

モンゴル技大における日本語教育の問題は、

教育施策上の問題：政府による大学の教育改革

教師の問題：学科内における研究会が存在しない。教材開発プロジェクトの立ち上げが遅れている

学習者の問題：多くの問題があるが、特に漢字学習に対する苦手意識

から で取り上げた問題は密接に関係しているが、特に の問題は重要である。

モンゴルで用いられているモンゴル文字とキリル文字は、表意文字ではなく表音文字であり、モンゴル技大の学生にとって「ひらがな」「カタカナ」は習得しやすいが、「漢字」は字形・音・意味を表わすまったく異質のものである。

モンゴル人日本語学習者にとって、発音、文法項目などの習得に比べ、漢字の習得は非常に難しい。このような問題を解決するためには、日本語授業全体における漢字の授業の重要性を見直すことが必要である。

発表に対する質問：

- モンゴル技大の漢字授業はなぜ1年生のみなのか。
- ウラムバヤル（2005）で提案した漢字シラバスは、具体的にどんなものか。
- 漢字学習を考える上でどんな漢字をどのように指導したいと思うか。
- モンゴル人学習者にとって漢字学習が困難であるが、なぜ他国と比べて日本語能力試験1・2級の受験者の割合が多いか。その原因は何か。社会的な背景があるかどうか。

